



令和に求められる資質・能力を育成する授業づくりへの羅針盤 ～授業で力をつける～

発行

R6年9月

西部教育事務所

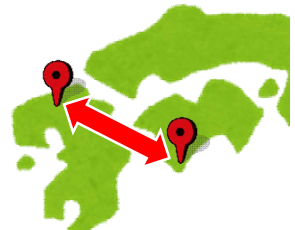


講座 HP

話すこと「やり取り」の授業づくり

第5学年 Unit3 Can you play dodgeball?

山田小学校（福岡県）の5年生とお互いのことを知るために自己紹介しよう

Can-Do リスト形式
の学習到達目標

聞くことイ

ゆっくりはっきり話された際に、友達の日常生活に関する自分が知りたいことについて、具体的な情報を聞き取ることができる。

話すこと
[やり取り]イ

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な単語や表現を用いて反応したりすることができる。

土佐清水市立清水小学校
教材研：5月28日
授業研：7月12日

清水小学校の外国語の授業は、全学年を教科担任である志村教諭が行っています。しかし、管理職や研究主任の推進力により、チームとして全教職員で熱心に授業づくりに取り組んでいます。

本講座は、小学校・中学校・高等学校の先生方が、一緒に協議できることも魅力のひとつです。

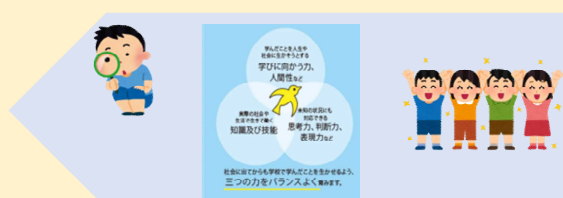
私たちを取り巻く社会環境は複雑さが増し、今後は更に予測が困難な時代になると言われています。そんな時代を生きていく今の子供たちは、**自ら問題を発見し、知識を活用して粘り強く試行錯誤しながら、その問題を解決する力**を身に付けなければなりません。

そのためには、一人一人の子供を主語にした自立した学習者を育てる授業へと変えていく必要があります。

予測困難な時代



自ら問題を発見し、解決する力



本単元では

県外の5年生と、お互いのことを知り、仲良くなるため（目的）に、オンラインで自己紹介をする（場面）ことになった5年生。初めて顔を合わす相手（状況）と「何を、どんな英語で話すとよいのだろう？」という問いが生まれます。これまで習った表現や新たに学んだ表現を使って、よりよいコミュニケーションを目指していきます。

単元計画

1	2	3	4	5	6	7	8
					★ 本時	★	

個別最適な学び

課題に対して、一人一人の児童が**解決の見通し**をもつようにする。

お互いのことをもっと知るために

自己紹介をレベルアップしよう

反応したい

内容を増やしたい

英語での言い方を知りたい

個別最適な学び

協働的な学び

課題を解決するために、**自分に合った方法**を選ぶようにする。

自分の席で？
自由に動きながら？
●友達と？ ●ALTと？

教科書で？[紙 or デジタル]
録画した動画で？
話しながら？

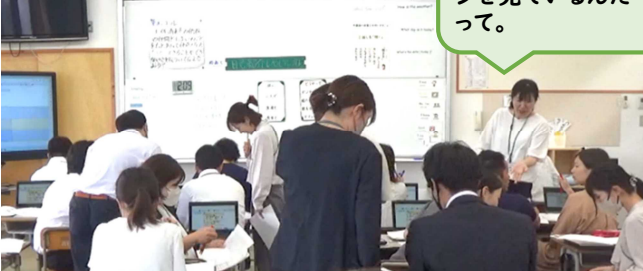
●「いつ」「だれと」「どのように」学ぶのか、教師の指示に従いながら学ぶのではなく、課題解決のために必要な相手や場所などの環境、情報の収集の対象などを子供が自ら選択し、学び進めたいことができるようにします。

協働的な学び

模擬授業の様子：児童役は、自分で選択した様々な学び方をしています。

OOさんは、デジタル教科書の△ページを見ているんだって。

教師は、「こんな風に学んでいる友達がいるよ。」と、よりよい学び方に気付かせたり、「なぜこんな方法で学んでいるの？」と、見方・考え方を引き出したりするなど、子供同士をつないでいきます。



また、中間指導では、表現の高まりが見られる児童を取り上げてそのよさを共有したり、困っている児童を取り上げて、全員で言語活動の内容面や言語面を一緒に考え、対話を通して、学びを深めていきました。

本時の目標：お互いのことを知るために、できることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて伝えたり、反応したりすることができる。

学習活動及び発問や児童の反応

1. Greeting

2. Today's Goal

○前時（山田小とのオンライン交流1回目）の振り返り

T: What did you say?

C: 「名前」「誕生日」「好きなこと」「できること」「質問」

○めあての設定

T: 2回目の交流に向けて、今日はどうする？

C: 自己紹介をよくしよう（全体のめあて）

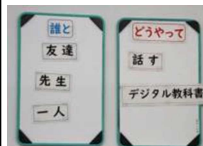
T: お互いのことを知るために頑張ることは？

C: （C: 端末に自分のめあてを書き始める）

3. Activity①

○自分に合った方法で、言語活動をよりよくする

児童 A（1回目）



Hello. My name is ~.
My birthday is ~.
I can play table tennis and baseball.
I like pineapple and muscat.
I don't like mushroom(s).
When is your birthday?
(続いて児童 B)

4. 中間指導

○Good モデルの児童の言語活動を聞く

一人目

T: どんどこがよかった？

C: I see. と反応していた

C: 質問していた

T: なぜ質問をしたのかな？

C: 知りたいから

二人目

T: どんどこがよかった？

C: 自分の誕生日の後に相手の誕生日を聞いていた

T: 一方的ではなかったよね

5. Activity②

T: レベルアップするんだよ



「自分より英語を知っている人と話してみたい」と、参加者や ALT と話す児童が増えました。

6. Reflection

C: What color do you like? を新しく聞けた

7. Greeting

講師より
関西外国語大学
直山木綿子教授



児童 A は、友達の表現を自身に取り入れることができていました。しかし、本当に好きな色を知りたくて言っていたのでしょうか？ 会話が止まって困った時に言っているようでした。では、今回のやり取りに必要なことは何だったのでしょうか？

★中間指導では、「どんな質問をしたのか？」を尋ねることが重要です。

例えば

T: どんな質問をしたの？

T: 相手が何と言ったから？

T: ここでもう一回やってみて。

C: What sport do you like?

C: 体育が好きって言ったから。

I like P.E.

I like

dodgeball.

C: Can you play dodgeball well?

このように、児童全員を巻き込みながら、**相手の話の内容に関わる質問をすることが「相手をより知る」となる**と、理解させていきます。

実際にやり取りを体験しながら学ぶことは、質問する表現を得ることに繋がっていきます。

更に、日々の授業のスマールトークでも共有したことに関わる質問をさせ、様々な話題に関して質問をし合い、やり取りの力を付けていきたいと思います。

参加者の声

★個々のめあてを引き出して目標をもたせ、それぞれの目標達成や課題解決に向けた学び方を個々に委ねることで、自分に合った（必要な）方法で学び進められるようにすることが大切だと分かった。

★良い活動をしている児童を全体に知らせ、共有することにより個別最適化につながる。
★複式、他教科、中学校でもチャレンジしたい。

★教えるのではなく気づかせて、子ども主体で学び進める授業づくりの方向性をみんなで確認しながら研究を進めていきたい。

★教師が身に付けさせたい資質・能力として、対話活動や会話のキャッチボールをしたいのであれば、それに沿うように自分の発表内容を「詳しく」するのではなく、質問をさせていくことが重要だと知れた。